

淀川水系河川整備計画(変更)の概要

令和3(2021)年8月6日 変更
国土交通省 近畿地方整備局

淀川水系の更なる河川整備について、
詳細な資料は、近畿地方整備局ホーム
ページをご覧ください。



淀川流域の概要 河川整備計画策定以降の経緯と背景

河川整備計画策定（平成21(2009)年3月）以降、河川整備計画に位置付けた整備が大幅に進捗してきた一方、平成25(2013)年台風18号、平成29(2017)年台風21号、平成30(2018)年7月豪雨など、頻繁に豪雨が発生しています。また、淀川大塚切れ100年を契機に一堂に会した沿川自治体からは、流域全体で河川整備のさらなる推進を求められました。

こうしたことを踏まえ、淀川水系における河川整備のあり方について、関係府県と意見交換を行い、関係府県から河川整備計画を見直すべきとのご意見をいただきました。

平成21年3月 ・ 淀川水系河川整備計画策定。

平成25年9月 ・ 台風18号洪水により、桂川において、越水・溢水による浸水被害が発生。
 ・ 瀬田川洗堰が全閉操作を、日吉ダム、天ヶ瀬ダムが異常洪水時防災操作を実施。



平成29年10月 ・ 淀川大塚切れ(大正6(1917)年10月)から100年。淀川サミットにおいて、「淀川宣言」が採択。

平成29年10月 ・ 台風21号洪水により、木津川の堤防において漏水が発生。
 ・ 瀬田川洗堰が全閉操作を実施。
 ・ 名張川等において、越水により浸水被害が発生。



平成30年7月 ・ 7月豪雨により、桂川において越水による浸水被害が発生。
 ・ 日吉ダム、一庫ダムが異常洪水時防災操作を実施。



平成31年1月～4月 ・ 淀川水系における中・上流部の河川整備の進捗状況とその影響にかかる委員会開催。その後6月に報告書公表（近畿地方整備局）。

令和元年5月 ・ 淀川水系河川整備促進に関する緊急提言（淀川流域51市町村）
 「河川改修やダム事業といった抜本的な治水事業全般をより一層加速」、「さらなる治水対策推進に向けて、必要となる河川整備計画の変更を行うこと」（提言抜粋）



令和元年10月 ・ 「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」提言公表（気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会）。

令和元年11月 ・ 淀川水系における更なる河川整備の意見照会（近畿地方整備局）。その後2020年3月までに関係6府県から回答。

令和2年7月～令和3年2月 ・ 淀川水系関係6府県調整会議を開催。さらなる河川整備に向けて、河川整備計画の変更手続きを進めることを全会一致で確認。



淀川流域の概要 事業の進捗状況

河川整備計画策定から概ね10年が経過し、治水安全度の低い桂川の掘削のみならず、宇治川塔の島改修の完了や上野遊水地の運用開始、川上ダムの本体着手、阪神なんば線事業の着手など河川改修が進捗しました。

桂川嵐山地区可動式止水壁
【2021年概成】



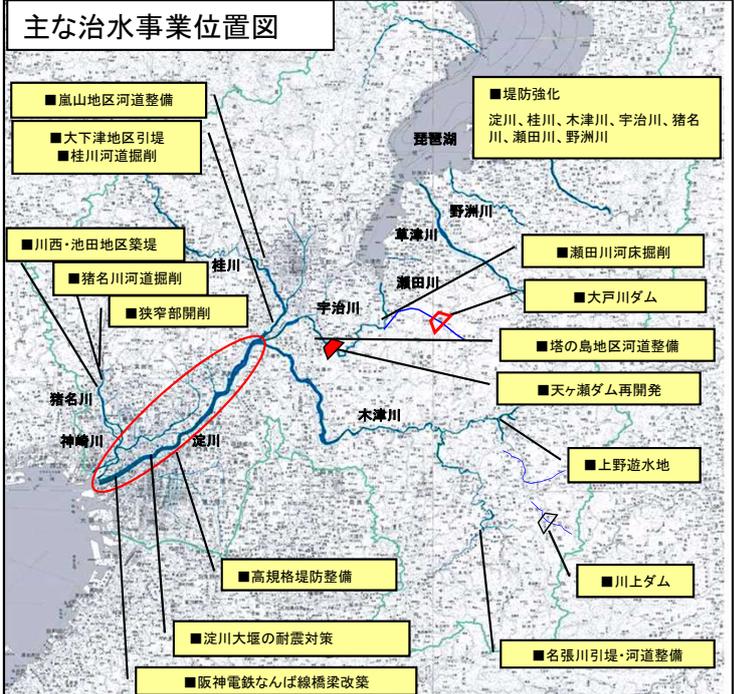
桂川河道掘削
施工前(H27)



桂川河道掘削
施工後(H27)



淀川 阪神電鉄なんば線橋梁
【2023年度完成予定】



天ヶ瀬ダム再開発【2021年度完成予定】



宇治川塔の島地区【2018年完成】



堤防強化(ドレーン工の施工例)



川上ダム【2022年度完成予定】



上野遊水地【2015年度運用開始】



河川名	事業メニュー	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021~
淀川本川	阪神なんば線淀川橋梁架替													2021~ 工事着手
	淀川堤防強化	●											2019完了	
宇治川	宇治川塔の島改修	●												2018完了
	天ヶ瀬ダム再開発													2021完了予定
瀬田川	瀬田川河道掘削	●												2020完了予定
	鹿跳溪谷対策													● 2021~
	瀬田川洗堰耐震対策等													● 2021~
桂川	桂川大下津地区引堤	●												2023完了予定
	桂川河道掘削(嵐山地区含む)	●												緊急治水対策 2019完了 H16出水対応
木津川下流	木津川下流堤防強化	●												2021完了予定
木津川上流	上野遊水地	●												2015完了
	木津川・服部川河道掘削													● 2021~
	川上ダム	●												2022完了予定
猪名川	名張川河道改修(引堤・掘削)													● 2021~
	猪名川河道掘削、堰改築	●												2023完了予定
猪名川	堤防強化	●												2020完了予定
	大戸川ダム(付替県道含む)	●												付替道路 ● 2021~ 本体工事 ● 2021~

凡例
 ● 完了・完了目途が立っている事業
 ● 事業実施中
 ● 事業未着手

出典: 淀川水系における中上流部の河川改修の進捗状況とその影響検証にかかる委員会(2019)

河川整備計画(変更)のポイント 流域治水の推進

国・府県・市町村・企業・河川協力団体・住民等の河川の流域のあらゆる関係者が協働して、氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、被害対象を減少させるための対策、被害の軽減、早期復旧・復興のための対策を流域全体で行う治水対策「流域治水」を推進します。

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 雨水貯留機能の拡大** 集水域
[国・市、企業、住民]
雨水貯留浸透施設の整備、ため池等の治水利用
- 流水の貯留** 河川区域
[国・県・市・利水者]
治水ダム等の建設・再生、治水ダム等において貯留水を事前に放流し洪水調節に活用
- [国・県・市]
土地利用と一体となった遊水機能の向上
- 持続可能な河道の流下能力の維持・向上**
[国・県・市]
河床掘削、引堤、砂防堰堤、雨水排水施設等の整備
- 氾濫水を減らす**
[国・県]
「粘り強い堤防」を目指した堤防強化等

② 被害対象を減少させるための対策

- リスクの低いエリアへ誘導／住まい方の工夫** 氾濫域
[国・市、企業、住民]
土地利用規制、誘導、移転促進、不動産取引時の水害リスク情報提供、金融による誘導の検討
- 浸水範囲を減らす** 氾濫域
[国・県・市]
二線堤の整備、自然堤防の保全

③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 土地のリスク情報の充実** 氾濫域
[国・県]
水害リスク情報の空白地帯解消、多段階型水害リスク情報を発信
- 避難体制を強化する**
[国・県・市]
長期予測の技術開発、リアルタイム浸水・決壊把握
- 経済被害の最小化**
[企業、住民]
工場や建築物の浸水対策、BCPの策定
- 住まい方の工夫**
[企業、住民]
不動産取引時の水害リスク情報提供、金融商品を通じた浸水対策の促進
- 被災自治体の支援体制充実**
[国・企業]
官民連携によるTEC-FORCEの体制強化
- 氾濫水を早く排除する**
[国・県・市等]
排水門等の整備、排水強化



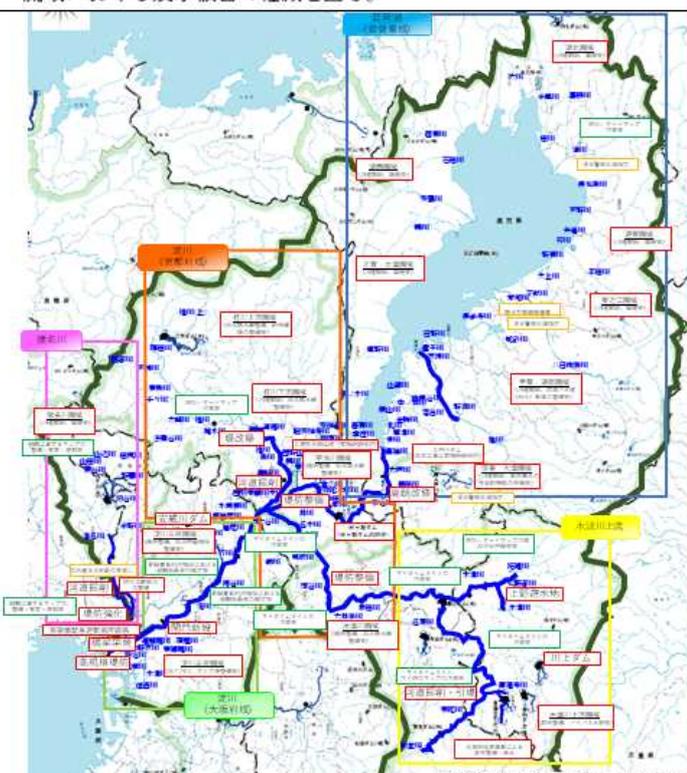
あらゆる関係者が協働して行う「流域治水」の施策のイメージ

淀川水系流域治水プロジェクト 【位置図】

【全体版】

～流域人口1,100万人の「淀川市民」の命を守る治水対策の推進～

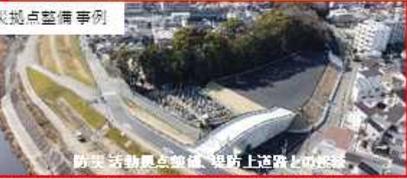
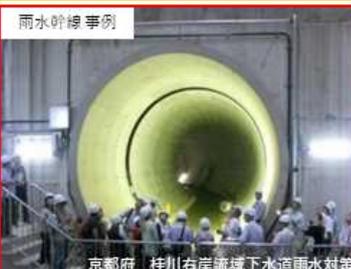
○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、淀川水系においても、下流部ではゼロメートル地帯が広がり、上流の宇治川・瀬田川、木津川、桂川においては、琵琶湖からの流出部をはじめ、岩倉狭、保津峡と呼ばれる狭窄部が存在し、猪名川においても銀橋周辺が狭窄部となっていることを踏まえ、上流域では、川上ダム建設や天ヶ瀬ダム開発等による洪水調節機能の向上を、下流域では、洪水の流れを阻害している阪神なんば線の架替等の事前防災対策を進める必要があり、国管理区間においては、戦後最大規模の洪水と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。



- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**
 - 河道掘削、河道拡張、築堤、高規格堤防、天ヶ瀬ダム再開発、川上ダム、安威川ダム、上野遊水地、鹿野改修、橋梁架替、地下河川、バイパス水路、堰改築、大戸川ダム（本体工事は実施時期検討）
 - 流域下水道（雨水）管渠の整備、公共下水道（雨水）管渠等の整備、雨水ポンプ増強
 - 雨水貯留浸透施設の整備、開発行為に伴う調整池の設置、ため池の治水利用
 - 利水ダム等25ダムにおける事前放流等の実施、体制構築

- 被害対象を減少させるための対策**
 - 立地適正化計画に基づき水害リスクの低い地域への居住誘導
 - 建物等の雨水機能の確保・維持
 - 浸水範囲の限定・氾濫水の制御 等

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**
 - 水害リスク空白域の解消
 - ハザードマップの周知および住民の水害リスクに対する理解促進の取組
 - 避難勧告等の判断・伝達マニュアルの整備
 - 広域避難計画等の策定・マイ・タイムラインの作成
 - 要配慮者利用施設における避難計画等の策定及び避難訓練の実施
 - 「局地的豪雨探知システム」の利活用推進とゲリラ豪雨対策アクションプランの策定
 - 住宅再建共済制度への加入促進 等



※流域治水協議会には現時点で86機関が参加
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。各エリアの主な対策を記載しており、各エリアの詳細については、別途分冊（詳図）を参照してください。
※河川管理者の河川整備計画は、現時点では現行計画を基にプロジェクトに反映しますが、今後、河川整備計画の変更手続きを行う予定なので、変更された場合はその内容を反映します。
※他の事業者の計画も見直しがあれば、同様に反映します。※新たな関係者にも広く参加を呼びかけることから、新たな関係者の計画も反映します。

河川整備計画（変更）のポイント 河川整備の目標

宇治川、桂川については、平成21年に策定した河川整備計画の目標洪水（いずれも昭和28（1953）年台風13号）を上回る洪水を経験したため、平成25（2013）年台風18号洪水を安全に流下させます。

木津川、猪名川については、これまでの目標洪水（木津川は昭和28年台風13号、猪名川は昭和35（1960）年台風16号）を上回る洪水を経験していませんが、河川整備の進捗や、近年の気象状況、気候変動の影響等を踏まえ上下流バランスを確保しながら着実に安全度を向上させることとし、これまでの目標洪水において降雨量を1.1倍以上とした洪水を安全に流下させます。

その際、淀川本川においては計画規模洪水を安全に流下させます。

目標洪水が流下した場合の基準地点および主要地点の河道目標流量

	河川名	地点名	目標洪水が流下した場合の河道目標流量（括弧内は変更前）
地点 流量 (m^3/s)	淀川	枚方	10,800 (10,700)
	宇治川	宇治	1,500 (1,500)
	木津川	加茂	5,500 (4,900)
		島ヶ原	3,100 (2,800)
	桂川	羽束師	4,300 (3,600)
	猪名川	小戸	2,300 (2,100)

河川整備計画（変更）のポイント 主要内容【人と川とのつながり、河川環境】

人と川とのつながり

子ども達の関わりの促進

子ども達と川との関わりを促していくことは、持続的な人と川との関わりを構築していく上で重要です。

また、子どもの参加により親や地域の関わりが促されます。そこで学校等と具体的な取り組みについて調整し、学校教育において川に対する関心を高める工夫を行うとともに、実施した成果の有効活用を図ります。



水生生物調査（嵐山地区）（平成30（2018）年7月）

河川環境

淀川水系を代表する希少生物等の生物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全・再生

淀川水系には特別天然記念物のオオサンショウウオ、天然記念物のイタセンパラやアユモドキをはじめとする多くの希少生物が生息しています。

近年国や自治体単位ですすめられているレッドデータブックにおいても、淀川水系が多くの希少生物の生息環境として重要であることが認識されており、淀川管内のレッドデータ種を明らかにして総合的な保全活動が期待されています。

特にイタセンパラについてはその生息環境の拡大に対する期待が大きいです。これらの淀川水系を代表する希少生物について、その他の希少種以外の在来生物も含めた生息・生育・繁殖環境を保全・再生する取り組みを、関係機関とも連携し積極的に実施します。



イタセンパラ
（大阪府水生生物センター提供）

河川整備計画（変更）のポイント **主要内容**【治水・防災】

治水・防災

整備の考え方と目標を達成するために必要な対策内容

上流部の河川改修を先行して行くと、上流部での氾濫は解消されるものの、それまで氾濫していた洪水が下流まで流れてくることとなり、下流部の治水安全度が低下するため、上下流バランスを考慮した河川整備が必要です。

中上流部の河川整備は大きく進捗したものの、未だ、桂川の治水安全度は低い状況です。

仮に、桂川の改修のみを先行した場合には、淀川下流部は、計画規模の洪水に対して、計画高水位を超えることが想定されます。堤防決壊のリスクが高まれば、甚大な被害が発生するリスクが大きくなり、また、計画高水位を上回る場合には、排水ポンプを停止するため、寝屋川流域などに浸水被害が発生します。

そのため、中上流の河川改修と洪水調節施設整備や下流部の河川改修の両方が必要です。

特に三川合流部の水位を出来るだけ低下させることは、淀川の安全度向上だけでなく、宇治川、桂川や木津川の治水安全度にも寄与するため、極めて重要です。

主な事業 ※青字は変更・追加した事業

淀川：河道掘削、阪神なんば線橋梁架替、下流橋梁架替、高規格堤防、毛馬排水機場更新、淀川大堰閘門設置、支川（芥川）改修、堤防強化

宇治川：天ヶ瀬ダム再開発、大戸川ダム本体工事の実施、河道掘削、堤防強化

桂川：河道掘削、嵐山改修、ダム再生、堤防強化

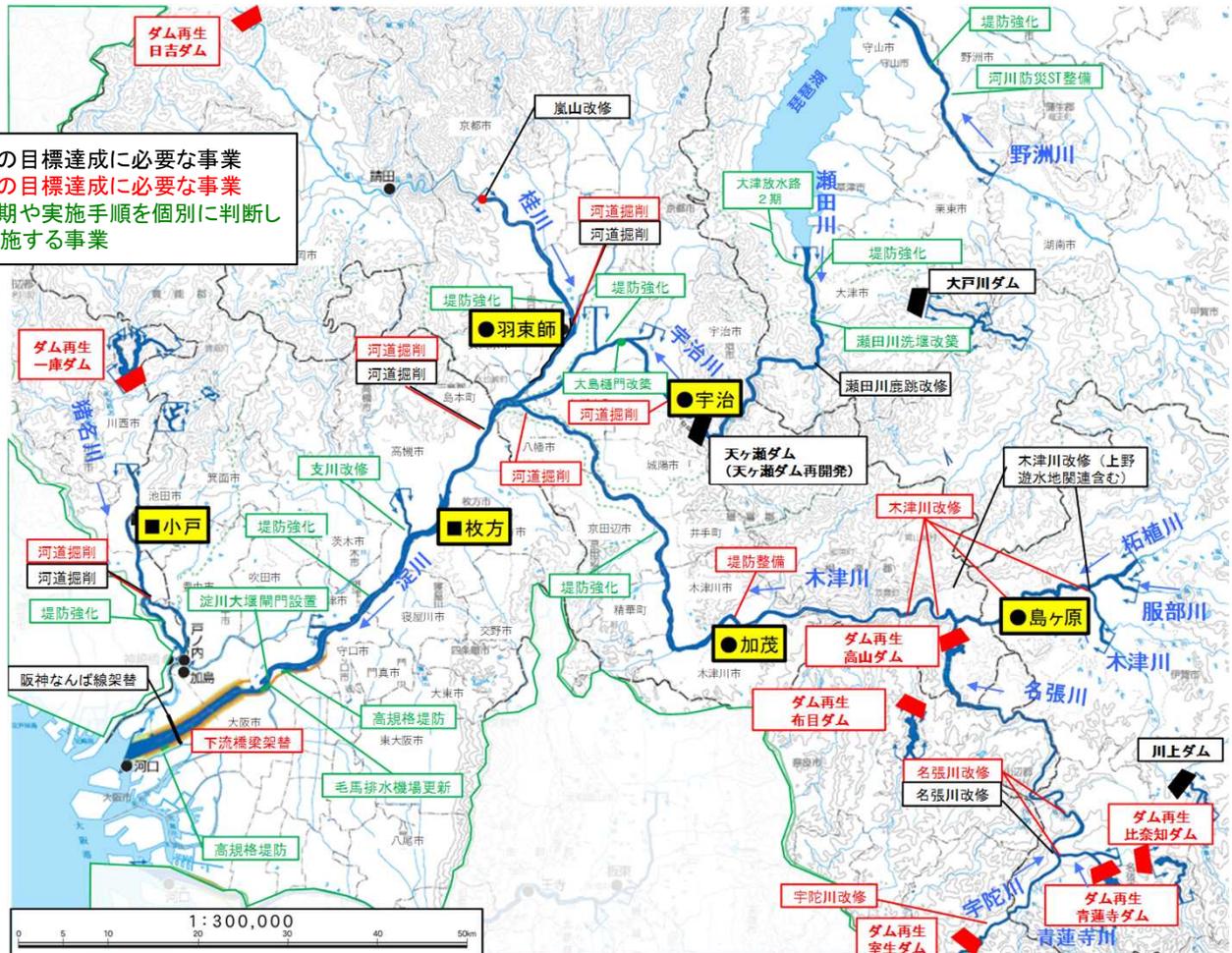
木津川下流：河道掘削、堤防整備、堤防強化

木津川上流：木津川改修（上野遊水地関連含む）、名張川改修、川上ダム、宇陀川改修、ダム再生、堤防強化

瀬田川：鹿跳改修、瀬田川洗堰改築、大津放水路2期、堤防強化

野洲川：河川防災ステーション整備、堤防強化

猪名川：河道掘削、ダム再生、堤防強化



基準地点・主要地点および主な事業の位置図

河川整備計画（変更）のポイント 主要内容【利水、利用、維持管理】

利水

既存水資源開発施設的环境に配慮した効率的運用

取水実態や治水上の必要性、河川環境への影響、近年の少雨化傾向等をふまえ、利水関係者と調整の上、既存水資源開発施設の統合操作や再編、運用の見直し等、より効果的な活用を図ります。



琵琶湖・淀川を水源とする給水区域

利用

憩い安らげる河川の整備

淀川流域の各河川において、自然環境や水辺の景観を活かしながら、人が水辺に親しめ近づくことができる環境づくりを行うため、地元の住民団体、河川レンジャー等の意見を聴きながら、かわまちづくり等に基づき治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を相楽郡和束町や名張市、宇治市において行います。なお、他の地域で河川空間の利活用ニーズの高まりにより、地域の取り組みと一体となって、かわまちづくりや「水辺の楽校プロジェクト」の取り組みが行われる場合は、市町村等と連携して整備を実施します。

川らしい利用の促進

川への親しみを増進するために、舟運の復活が望まれています。また、船の中から川の風景を楽しみたいという要望も強いです。さらには、平成7年兵庫県南部地震時には一般道路が交通混乱し、水上輸送の重要性が見直されました。これらのことから、淀川本川・宇治川において、河口から伏見までが航行可能となるよう、新たな航路確保等に必要な検討や整備、関係者に対して運航に必要な情報提供等を行います。また、川沿いの自治体や民間との利活用や舟運復活に向けた意見交換を実施します。

淀川大堰閘門設置位置
(平成26(2014)年11月)

維持管理

維持管理に関する基本的な考え方

高度経済成長期に整備された社会資本が今後、確実に老朽化し、維持管理や更新費用の増大が見込まれる中、計画的な維持管理・更新と社会資本ストックの徹底的な活用が喫緊の課題となっています。このことから、ライフサイクルコストの縮減を念頭に、定期的な点検等に基づき損傷が軽微な段階から対策を行う予防保全の考え方のもと、技術革新や社会情勢の変化に伴う新たなニーズに対応した機能向上を考慮し、効率的・効果的な維持管理・更新、既存施設の有効利用と長寿命化のための効率的な対策（アセット・マネジメント）を実施します。

具体的な維持管理の実施にあたっては、概ね5年間に実施する具体的な維持管理の内容を定めた河川維持管理計画に基づき、調査、巡視・点検等によって明らかになった河川の状態の変化及び維持補修の結果をもとに、定期的に河川の変化を把握・分析することを通じて、維持管理の実態を評価し、その結果に応じて必要な措置を講じます。

伐採前(H29.10)



伐採後(H30.3)



樹木伐採状況（枚方市牧野地先）

河川整備計画（変更） 河川法に基づく手続き

淀川水系河川整備計画（変更原案）を令和3(2021)年2月26日に公表し、パブリックコメント、公聴会及び淀川水系流域委員会を開催し、住民の皆様や学識経験者より、多くのご意見をいただきました。いただいたご意見を反映し、淀川水系河川整備計画（変更案）を令和3年4月28日に公表し、関係府県知事のご意見を聴き、淀川水系河川整備計画（変更）を策定しました。

淀川水系河川整備計画（変更原案）及び意見聴取方法の公表（令和3年2月26日）

意見聴取

- 関係住民（パブリックコメント）**
- 募集期間：令和3年3月1日（月）から
令和3年3月31日（水）まで
 - 提出者数：52名
 - ご意見の数：193件

意見聴取

- 関係住民（公聴会）**
- 令和3年3月27日（土）滋賀県会場 6名
大阪府会場 1名
 - 令和3年3月28日（日）京都府会場 1名
 - ※三重県会場、兵庫県会場、奈良県会場については、公述人の応募がなかったため、開催を取り止めました。

意見聴取

学識経験を有する者（淀川水系流域委員会）

- 委員会は、Web開催と書面開催を併用し、全ての委員からご意見をいただき、意見が出尽くしたことを確認し、審議を終了しました。

審議の経過	委員会		審議内容
	地域委員会	専門家委員会	
1回目	令和3年3月3日（合同開催）		河川整備計画（変更原案）の説明、意見聴取
2回目	令和3年3月22日	令和3年3月23日	補足説明、意見聴取
3回目	令和3年4月12日	令和3年4月12日	補足説明、意見聴取

地域委員会 委員名簿

氏名	分野	所属等
上田 耕二	治水・防災	元伊賀市喚代区長
上田 豪	人文・経済・社会	淀川河川レンジャーアドバイザー
小川 力也	環境	科学教室 力塾 塾長 元大阪府立富田林高等学校
志藤 修史	危機管理	京都災害ボランティアネットワーク 副理事長 大谷大学 文学部 教授
須川 恒	環境	龍谷大学 里山学研究センター 研究員
多田 重光	治水・利用	(公社)宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
中谷 恵剛	治水・防災	NPO法人 瀬田川リパbl隊
平山 奈央子	人文・経済・社会	滋賀県立大学 環境科学部 講師 元琵琶湖河川レンジャー
松岡 正富	治水・利用	朝日漁業組合
松本 馨	環境	「池田・人と自然の会」副代表 大阪大学大学院理学研究科招聘研究員

専門家委員会 委員名簿

氏名	分野	所属等
伊藤 禎彦	治水・利用	京都大学大学院 工学研究科 教授
大久保 規子	人文・経済・社会	大阪大学大学院 法学研究科 教授
大野 朋子	環境	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 准教授
竹門 康弘	環境	京都大学 防災研究所 准教授
立川 康人	治水・防災	京都大学大学院 工学研究科 教授
中川 一	治水・防災	京都大学名誉教授
堀野 治彦	治水・利用	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授
矢守 克也	危機管理	京都大学 防災研究所 教授

委員長：◎、副委員長：○

淀川水系河川整備計画（変更案）の公表（令和3年4月28日）

意見聴取

- 三重県知事 7月15日
 - 滋賀県知事 7月16日
 - 京都府知事 7月20日
 - 大阪府知事 7月26日
 - 兵庫県知事 7月12日
 - 奈良県知事 7月15日
- 同意する旨の回答

意見聴取

- 関係市町村長

淀川水系河川整備計画（変更）の策定（令和3年8月6日）